

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100236		
法人名	有限会社 ふれ愛		
事業所名	グループホーム ふれ愛の花 1階		
所在地	北海道釧路市中島町4番11号		
自己評価作成日	平成31年1月4日	評価結果市町村受理日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあう真心、あふれる笑顔」のホーム理念のもと、一人ひとりがかけがえのない存在として、尊厳を大切にそのひとらしく生活できるよう支援しています。尊厳を守る為に気を付けることを標語にし、定期的に自分たちができているか振り返りを行っています。認知症の方が落ち着いて生活できるよう温度、音、明かり、匂い等の環境を整え、清潔を保つよう心掛けています。職員も環境のひとつであると考え、認知症の方の話を否定せず傾聴、共感、寄り添うケアを心掛けています。認知症の方が持っている力を発揮できるよう、できることできないことを見極め、できることはして頂き、できないことをさりげなく支えるようにしています。日常的に入居者様と職員と一緒に洗濯物を干したりたたんだり、掃除や食事作りを行っています。ホームでの役割を持って頂くことで張り合いを持って生活できるよう支援しています。春には山花リフレの市民農園を借り、南瓜やとうもろこし等を植え、ドライブがてら農園へ行き農作業をしています。家族の方がホームに来られた時は笑顔で挨拶し、入居者様の近況をお伝えしたり、楽しい時間を過ごして頂けるよう心掛けています。何かあったら家族の方に相談し協力を得ながら、その人らしい生活を送ることができるよう支援しています。地震、津波、水害等非常災害避難マニュアルを策定し、避難訓練、備蓄品の用意等に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosyoCd=0194100236-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成31年1月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地の一角に位置し、幼稚園と小学校が近くにあり、地域とのかかわりを大切にして、通園・通学時に子供達に声掛けを行っている。町内会に加入し地域の一員として、廃品回収に協力したり、総会、盆踊りに参加するなど地域と交流している。又、近くの高校生がインターンシップに来て交流している。職員は事業所理念「ふれあう真心・あふれる笑顔」を共有し、明るく笑顔で利用者一人ひとりに寄り添いながらケアに努めている。職員は利用者の安全面や健康面に気を付けながら、利用者自身が出来ることは無理せずに任せ、やりがいを見い出すような支援をしたり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけて、利用者はモップ掛けをしたり、食事の準備、片付けなどを行っている。居間・浴室・トイレ等の共有空間や、居室の掃除も行き届き、清潔が保たれ、居心地良く過ごせるようにしている。職員の明るい挨拶、親切丁寧な連絡や説明などが利用者や家族の安心感、信頼感、感謝に繋がっている。家族の理解も得られ、避難訓練、運営推進会議、イベントの参加など、協力関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を踏まえた事業所理念は常に職員が見える位置に掲示し、日々意識しながら仕事をしている。社内研修や内例会議等にて理念の共有を図り、実践につなげている。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、事業所理念を玄関や廊下、事務室に掲示し、会議の中でも確認して職員で共有し、日々の業務の中で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊りや総会に参加したり、廃品回収の協力をしている。地域の方にホームの行事や避難訓練に参加して頂いている。庭の掃除や雪かきの際、近所の方と声を掛け合ったり、通学の小学生に声を掛けて交流を図っている。	町内会に加入し、地域の盆踊りや小学校の運動会・学芸会等に参加して交流を深めている。また、事業所の避難訓練や運営推進会議に町内会関係者が参加し、相互交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の際や、地域の方が行事で来訪された際には、認知症の方の理解を深めて頂けるような話をしたり、相談があった場合は支援の方法等について助言させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価への取り組み状況、プロジェクトで写真を見て頂きながら行事の報告を行っている。地域の方や家族の方の意見をサービスの向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族、知見者などが参加して年6回開催され、運営状況や近況報告等を行って意見や助言を得て、サービス向上に反映させている。議事録には参加者の発言が詳細に記載されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の各担当者に質問や報告等で連絡を密に取っている。事故報告や何かあった時は、代表者が市役所へ出向き報告、相談を行い、事業所の実情を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	代表者は市担当者と連絡を密にとり、更新の指導や報告、質問、相談、助言などを得ている。また、市担当者とは情報やアドバイス等がメールにてやり取りもしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠は、夜勤帯以外はしておらず、入居者の帰宅願望等には、無理に引きとめず、一緒に外へ出掛けホーム周りを散歩したり、本人の思いを傾聴したり、気を他に向けて頂けるよう対応をしている。3ヶ月に1回、会議の中で身体拘束についての話し合いを行っている。	職員は会議や勉強会で「身体拘束禁止についてのマニュアル」を基本に理解しながら、日々の業務で身体拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会があり研修会を行い、3カ月に1回会議を通じて実務の対応に配慮したケアに繋げている。外へ出たがる人とは一緒に外へ出かけている。	内部研修及び外部研修を通して、身体拘束をしないケアについて、利用者の言動や行動が日々の生活の場面場面で、接遇の対応が違ってくることについて理解しているが、場面によっては利用者の個性が強くなると拘束に繋がる事もあり得るので、場面場面にあった接遇の方法や接し方の工夫に期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部の研修に参加したり、社内研修会を行い、全職員が学んでいる。日頃より入居者の体の変色、あざ等に気を付け、発見した場合は管理者に報告、職員間で共有し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

グループホーム ふれ愛の花 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加し、制度について理解している。いまのところ必要性が高い入居者はいないが、今後必要になる場合もあるので、職員についても研修等で学ぶ機会をつくっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームに見学に来て頂き、利用者、家族の不安や疑問点について十分な説明を行うよう心掛けている。契約の際には重要事項について丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より入居者や家族とのコミュニケーションを積極的に図り、意見、要望をいい易い雰囲気を作るよう努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。	利用者と家族の絆を大切にしながらコミュニケーションを図り、意見や要望などを聞いている。家族の訪問が多く家族も職員を信頼し安心して話をしている。提案や意見は職員で共有しながら運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議の中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また管理者、代表者は普段より職員が意見を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。	管理者と職員は話し易い良好の関係にあり、定例会議の中で意見や提案をして検討し、日常のケアに繋げている。社長と個人面談も年2回行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人の勤務状況を把握し、努力や実績を評価している。各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量を把握した上で、積極的に外部の研修を受ける機会を設けている。また同じ法人の他の事業所と合同で研修を行っている。研修後は、報告書を作成し、会議で内容、感想等発表して、学んだことを共有し、活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症GH協会の研修等に積極的に参加し、他のホームの職員との交流を図り、ネットワークづくり、情報交換やケアについての相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、本人との面談の段階から、困っていることや要望等に耳を傾け、安心して入居できるよう努めている。入居後は、本人の言葉、態度、表情から本意を汲み取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談では、家族の思い、困っていることや不安なことをじっくり聴くよう努めている。入居後は家族が来訪した時は、本人の近況を報告し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた段階で、本人の状況、ニーズを把握し、その時に必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に掃除、食事づくりを一緒に行い、入居者から長年の経験から教えて頂くことも多い。食事やお茶のひと時を共に過ごし、そこでいろいろな会話をし、暮らしを共にしている者同士という関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時は、出来るだけ本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。普段の生活の様子を家族に報告、なにかあった時は相談している。共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前住んでいた家の近所の方等、馴染みのある方が来訪された時は、笑顔で出迎え、本人の所へ案内している。馴染みの方に電話を掛けたいと要望のある入居者には、電話の取り次ぎをしており、馴染みの方との関係が途切れないよう、努めている。	友人の来訪があった場合は、居室でゆっくりできるように配慮している。馴染みの場所へのドライブや知人の踊りの発表会に出かける支援を行っている。町内会行事には利用者也参加し、住民との馴染みの関係が出来て継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するよう努めている。入居者間で言い合いになっても、すぐに介入するのではなく、状況に応じ対応するようにしている。入居者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも立ち寄って頂けるように声掛けをしている。退居後、家族が訪ねて来てくれたり、電話で相談されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向については、本人に聞くようにしている。困難な場合は、生活歴や日常の会話や行動から汲み取ったり、様々な方法で把握するよう努めている。	日々の生活で何気ない会話から希望や意向を組みとったり、入浴時の中で話しが出た内容をアセスメントしながらその情報を全職員で共有している。会話や要望を表現しづらい利用者には、表情や様子で汲み取り、寄り添って把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方について本人や家族に聞いたり、センター方式のシートを活用し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、できること、できなくなったこと、心身の状態等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアーの会議の中で、一人ひとりの介護計画について、評価、見直しを行っている。より良く暮らすための課題を本人の言動や家族の話、職員の気付きから見つけ、家族、職員の意見、アイデアを反映し、介護計画を作成している。	利用者と家族の意向を反映させて、フロアー会議で3か月毎に介護計画を見直し作成して、利用者と家族に同意を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の一日の生活状況の記録を付け、身体的、精神的状態を職員間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが生まれれば、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方が訪問され、入居者と会話されている。入居者にとっては、外部の方との会話が良い刺激となり、楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、それぞれのかかりつけ医に受診したり、往診にて適切な医療を受けられる様支援している。	希望するかかりつけ医の受診は家族や職員が対応している。かかりつけ医の往診や訪問医の定期的な往診がある。毎月2回、訪問看護による利用者の健康管理を行い、医師の処方箋に変更があった場合は全職員が目を通しながら投薬に注意を払って安全な対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師の来訪時に、入居者一人ひとりを診て頂き、こちらからも日常の関わりでとらえた情報や気づきを伝え相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、安心して治療できるように、病院へ情報提供している。主治医や相談員と退院へ向けての相談を行い、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族と話し合いを行い、看取りの指針に沿ってホームで出来ることを説明し、医療機関とも連携を図り、支援に取り組んでいる。	入居時に利用者と家族に、重度化した場合や終末期のあり方について看取り指針に基づき説明し、同意を得ている。終末期には家族も含めて医師と相談し、頻繁に介護計画を見直しながら看護師の指導の下で適切なケアができる体制を整えている。看取り体験があり、職員の意識も高く前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1～2回、市民防災センターへ行き、救命救急(心肺蘇生、AEDの使い方)の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて火災の避難訓練を行っている(年2回)。市民防災センターへ行き、避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練を行っている(年1～2回)。火災だけでなく、地震、水害等非常災害避難マニュアルを作成し、訓練等に取り組んでいる。	消防の支援を受けて避難訓練を年2回行い、防災センターへも行って消火訓練や通報訓練等を受けている。胆振東部地震によるブラックアウトの経験から備蓄品について見直しを行い、地域住民へ災害時の支援協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応のための標語を掲げ、ホーム内の職員目の着く所に貼っており、気を付けて対応している。	利用者一人ひとりを尊敬しながら声掛けの時はプライバシーを損ねない対応を行っている。対応標語を掲げ職員は互いに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いたり、自己決定できるように聞き方の工夫をしている。希望の多い方に対してはできるだけ希望に添うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、急がしたり業務優先にならないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、季節感のある、その人らしい身だしなみや、好みのおしゃれができるよう心掛けている。		

グループホーム ふれ愛の花 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下の状況を把握し食事を作っている。また、入居者に材料を切ったり、盛り付けや味見をしてもらったり、日常的に入居者と職員が一緒になって、食事の準備や片付けをしている。	利用者個々の嗜好を把握しながら食事を作り、利用者の能力に応じて盛り付け・片付けなども職員と一緒にやっている。また、嚥下能力によって食の形態をかえながら楽しみの食事を支援したり、農園の収穫物が食卓に上がり、話題に花が咲きながら楽しい食事を提供している。誕生会やイベントの行事食を提供し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量を記録している。水分が不足している時は職員間で共有し、こまめに摂取を勧めている。バランスの良い食事が取れるよう献立を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。口腔ケアの習慣がなかった入居者にも根気よく働きかけ、口腔ケアをしてもらえるようになった。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の一日の排泄のパターンを把握した上、自立した排泄の支援を行っている。頻尿の方もトイレに行くことも運動になると考え、車椅子を自走して頂いている。	一人一人の排泄パターンを把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレでの自立排泄を支援している。また、車椅子の人でも自走でトイレに行ける様に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、便秘予防のため牛乳を飲んで頂いている。野菜を多く取り入れる献立にしたり、水分を多く摂取したり、運動をして頂く等予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴の曜日、時間は決まっているが、状況によって流動的に対応している。一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週3回を基本とし、体調や状況によって流動的に対応をして、楽しめる入浴を支援している。利用者の希望によっては足浴や清拭の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、健康状態、睡眠の状況を把握し、安心して眠れるよう室温、明かり、音等の環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、副作用について理解し、薬を飲み込むところまで確認している。薬の変更があった時は、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に洗濯物を干したりたたんだり、もやしのひげ取りをしたり、モップ掛け等の役割や庭に花を植えたり、山花のリフレ農園を借りて野菜を栽培したり、盆踊り、ドライブ等の楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

グループホーム ふれ愛の花 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望にそって、散歩、ドライブ、買い物等で戸外に外出している。毎年行っている演芸会を楽しみにしている方がおり、主催者の協力を得て車椅子の席を用意してもらい他の入居者、職員で参加している。	日常的に散歩や買い物に出かけたり、盆踊りや演芸会を観に行ったりするなど外出支援を行っている。また、近隣の飲食店に年2回の食事会に出かけることを楽しみにしている利用者を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していると安心できる入居者には、財布に少額のお金を入れて居室に置いて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、手紙のやり取りできるよう支援している。家族に頻繁に電話の希望がある入居者については、家族の協力を得て早朝や夜は避けて電話の取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、明るさ、臭い等不快な刺激がないよう配慮している。入居者と一緒に掃除をし、気持ちよく過ごせるようにしている。また、季節により飾り付けし、季節感を感じて頂いている。	廊下、居間、トイレはゆとりの有る広さで、温度、湿度は適温が保たれている。浴室に暖簾を掛け、トイレに表示札をつけて分かりやすくしている。食卓は、対面で皆の顔や様子が見えて和やかである。趣味の編み物をしたり、職員と一緒に掃除をしたり思い思いに過ごしている。壁には手作りの大きいカレンダーがあり、季節感ある飾り付けも貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者同士で会話したり、共用空間の一人掛けのソファで独りになったり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、テーブル、鏡台等を持ち込んで頂いたり、家族の写真、本人の好みの造花、ぬいぐるみ等を飾ったりして、居心地良く過ごせるようにしている。	クローゼットが備え付けられ、使い慣れたタンスやテーブル、鏡台、仏壇などを持ち込み、馴染みの小物(ぬいぐるみ・家族写真・壁飾りなど)を飾って居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレに案内札、浴室に「ゆ」と書いてあるのれんをつけて、わかりやすいように工夫している。		